

K-145

梅野木前1遺跡 発掘調査報告書

—市道嶋西通り線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2006

山　　形　　市
山形市教育委員会

うめ の き まえ

梅野木前1遺跡 発掘調査報告書

一市道嶋西廻り線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査一

平成18年3月

山形市
山形市教育委員会

序

本報告書は、平成17年度に実施した、梅野木前1遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

遺跡のある山形市島地区は、良好な水田地帯となっていますが、現在山形市島地区画整理組合により、宅地開発のための区画整理事業が進められています。今調査は、区画整理事業地の西端を通る、市道島西廻り線道路改良工事に先立って実施されたものです。

調査では、平安時代の土坑や柱穴が検出され、墨書き土器など当時の生活内容を考察する上で貴重な資料を得ることができました。

山形市内には、国指定史跡「山形城跡」や「鳴遺跡」をはじめ、約380箇所の遺跡が確認されております。これらの遺跡は、山形市の歴史や文化を正しく理解するうえで、欠くことのできない市民共有の歴史的財産となっています。

近年は市内各地において様々な開発事業が進められており、埋蔵文化財保護を目的とした調整の結果、発掘調査に至る事例が多くなっています。また、史跡「山形城跡」の保存や整備を目的とした発掘調査も継続されているところです。

本書が埋蔵文化財についての保護啓蒙のために、皆様の地域史探求の一助としてご活用いただければ、誠に幸いります。

最後になりましたが、調査にあたって埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただき、発掘調査に多大なご協力をいただきました地元の方々をはじめ、山形市島地区画整理組合や工事関係者の皆様、発掘調査に携わった作業員の皆様並びに関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成18年3月

山形市教育委員会
教育長 大場 登

例　　言

1 本書は、山形市による市道嶋西通り線道路改良工事に係る「梅野木前1遺跡」の発掘調査報告書である。

2 調査は山形市建設部河川道路整備課の依頼により、山形市教育委員会が実施した。

3 調査要項は下記のとおりである。

遺跡名 梅野木前1遺跡（うめのきまえ1いせき）

所在地 山形県山形市大字梅野木前

遺跡番号 平成3年度登録

現地調査 平成17年10月3日～10月31日

整理作業 平成17年11月1日～平成18年3月30日

調査面積 185m²

調査主体 山形市建設部河川道路整備課

調査実施機関 山形市教育委員会

調査担当者 社会教育課課長 伊藤 邦男

課長補佐 江川 隆

文化財保護係長 小野 徹

主　　事 植松 薫

臨時職員 横口 有美

現場代理人 戸部 孝一（山武考古学研究所）

調査協力 山形市島地区画整理組合

4 本書の作成・執筆・編集は植松薫が担当し、資料整理、図版作成に際し、臨時職員横口有美、武田陽輔の協力を得た。

5 発掘調査及び出土遺物の整理にあたっては、以下の方々からご協力を頂いた。記して感謝申し上げる。
(敬称略)

芦名久子 石垣勝幸 伊藤桂子 伊藤省三 大貫文義 三部秋夫 武田昌子 深瀬美貴子（以上現場調査）

芦名久子 伊藤桂子 武田昌子 深瀬美貴子（以上遺物整理）

伊藤邦弘（財団法人山形県埋蔵文化財センター）深澤篤（財団法人山形県埋蔵文化財センター）

6 委託業務は下記のとおりである。

埋蔵文化財調査補助業務 有限会社 山武考古学研究所

7 出土遺物、調査記録類については、山形市教育委員会が一括保管している。

凡　　例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は以下の通りである。

S K…土坑	S D…溝跡	S P…柱穴・ビット	S X…落ち込み状遺構・性格不明遺構
R P…登録土器	P…土器	S…石・礫	W…木・杭
- 2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。
- 3 遺跡概要図・遺構配置図に付す座標値は、世界測地系の座標に基づく。図中の方位は座標北を示している。
- 4 遺構実測図は $1/20$ ～ $1/250$ の縮図で採録し、各々スケールを付した。なお、実測図中の、「●」は遺物の出土地点を示す。
- 5 遺構実測図中の水系レベルは標高を表す。単位はmである。
- 6 土層観察において、遺跡を覆う基本層序についてはローマ数字を、遺構覆土についてはアラビア数字で表している。
- 7 遺物実測図・択影図は $1/3$ の縮図で採録し、スケールを付した。なお、土師器、陶器は断面白抜き、須恵器は「●」を断面右下に付した。
- 8 遺物観察表において、() 数値は図上復元による推計値または残存値を、「-」は欠損等による計測不能を示す。単位はcmを使用している。出土地点欄の層位では「F」は遺構覆土内出土、「Y」は遺構底面出土を示し、ローマ数字「I～V」などは遺跡を覆う土層（基本層序）を示している。
- 9 遺物図版については、任意の縮尺とした。
- 10 遺構・遺物番号については、本文、表、挿図、写真図版とも一致している。
- 11 基本層序及び遺構覆土の色調記載については、「新版土色帳」（小山・竹原1997）に掲った。

目 次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経過	1
2 調査の方法と経過	1
II 遺跡の立地と環境	
1 地理的環境	3
2 歴史的環境	3
III 遺跡の概観	
1 調査区と層序	5
2 遺構と遺物の分布	5
IV 検出された遺構と遺物	
1 土坑	9
2 溝跡	9
3 柱穴跡	9
4 その他出土遺物	9
Vまとめ	16
報告書抄録	17

表

表1 出土遺物觀察表	15
------------	----

挿 図

第1図 調査概要図	2
第2図 遺跡位置図	4
第3図 基本層序柱状図	6
第4図 遺構配置図	7
第5図 SK13土坑	10
第6図 SK2土坑・SD8溝跡・SP14柱穴跡	11
第7図 SD1溝跡	12
第8図 SD1溝跡出土遺物	13
第9図 その他出土遺物（1）	13
第10図 その他出土遺物（2）	14

図 版

図版1 調査前状況ほか	図版5 調査区近景ほか
図版2 遺構精査状況ほか	図版6 SK13出土遺物・SD1出土遺物
図版3 2区遺構完掘状況ほか	図版7 SD1出土遺物・その他出土遺物（1）（2）
図版4 4区遺構完掘状況ほか	図版8 その他出土遺物（2）

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

梅野木前1遺跡は山形市北西部の島地区に所在する。平成3年度、島および今塚地区的約104haにおいて市街化区域編入と区画整理事業による宅地開発が計画されたことを受け、山形県教育委員会で実施した表面踏査により、奈良・平安時代の遺跡として新規登録がなされた遺跡である。

平成15年度、一般県道大野目内表線緊急地方道路整備事業に伴い、事業区内の本遺跡にかかる部分について記録保存を目的とした緊急発掘調査を、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。この調査中に古墳時代の土器が大量に発見され、本遺跡は古墳時代と奈良・平安時代の複合遺跡であることが新たに判明した。つづく平成16年度の調査では、県内で最古の古墳時代の水田造構が発見されるなど、同時代前期の住居域、生産域などの集落構成が窺える貴重な調査成果が得られている。

一方、本教育委員会でも平成15年度、土地区画整理事業の進展に伴い、梅野木前1遺跡範囲の東側について試掘・確認調査を実施したところ、造構・遺物の分布がさらに東に伸びることが分かり、遺跡範囲の変更を県に報告している。ただし東に伸びる部分は、古墳時代の文化層は確認されず、奈良・平安時代の集落が広がるものと考えられる。

平成17年度、山形市では、島地区画整理事業地西側に隣接している農道を市道に編入し、市道島西廻り線道路改良事業として整備することになった。本教育委員会は当該事業地内には周知の遺跡である「梅野木前1遺跡」が含まれることから、その取り扱いについて河川道路整備課をはじめとする関係機関と協議を行った。協議をしていく中で、当該事業対象地は現道であり、過去に水道管の埋設工事が行われたなどの理由から、遺跡の遺存状況などの詳細な情報を確認する必要が生じ、同年6月末に試掘調査を実施した。その結果、道路のほぼ中央に水道管が埋設されていたが、埋設工事による掘削を除く箇所は、奈良・平安時代の土器が出土し、遺物包含層が確認された。試掘調査の結果に基づき、再度、遺跡の取り扱いについて協議を行い、現道の東側については発掘調査を実施し、西側については、水道埋設部分があるため調査対象地域が狭く、通常の発掘調査ができないことから工事中に立会調査を行うことで合意した。

発掘調査は、山形市建設部河川道路整備課の依頼により、当市教育委員会が実施したものである。工事の工程上、現道東側については平成17年10月3日から10月31日の延べ29日間、西側については翌18年1~3月中に工事の進捗に合わせて立会調査を実施し、適宜必要な記録措置を取ることとした。

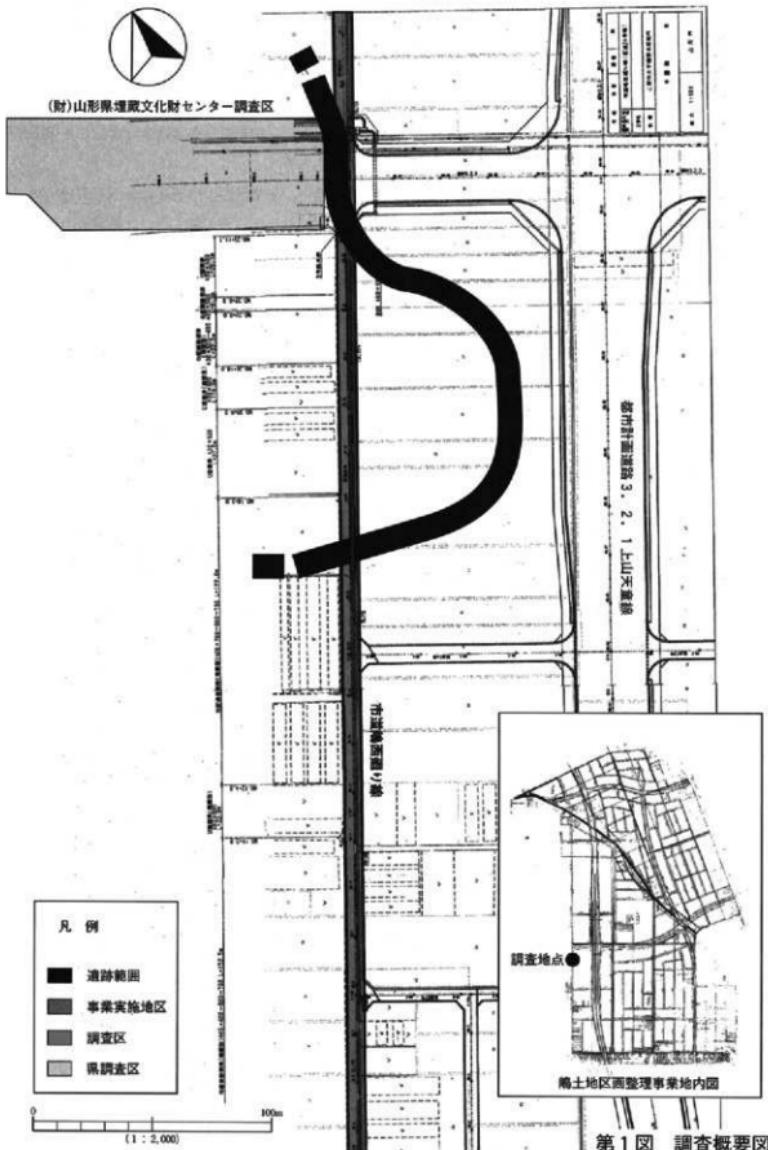
2 調査の方法と経過

現道東側についての発掘調査は、平成17年10月3日から10月31日までの実質18日間実施した。調査面積は約185m²である。

10月3日に調査区の設定をし、6日に休憩所・仮設トイレなどの設営、発掘器材の搬入と環境整備を行う。10月5日より重機による表土除去を開始した。その後、人力により造構面まで掘り下げを行った。造構検出面は標高約104.5~105.5mを測る。造構検出の結果、土坑、柱穴、落ち込み状造構などが検出された。その後、造構検出状況の写真撮影、造構登録・精査を行った。造構精査は土層観察のために、各造構に合わせて半裁及び土層を帶状に残すなどしている。造構精査の状況に合わせて平面図や断面図の作成、遺物の検出および登録、写真撮影、土層注記などの記録作業、遺物取上げなどを実施した。10月24日より重機による埋め戻しを行い、26日に器材を撤収し、31日に現地における調査を終了した。



(財)山形県埋蔵文化財センター調査区



第1図 調査概要図

Ⅱ 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

梅野木前1遺跡は山形県山形市の北西部に所在する。山形市は山形県の東部、山形盆地の東南部に位置し、東は奥羽山脈、南部と西側は白鷹丘陵に仕切られる。奥羽山脈から源を発する馬見ヶ崎川が北流し、南東から北西に伸びる扇状地を形成している。山形市街地はこの馬見ヶ崎川扇状地上に発展し、東の奥羽山脈から盆地西側を北流する須川に向かってやや傾斜する地形となっている。標高は馬見ヶ崎川扇状地の扇頂部で200mを超え、本遺跡付近では105m前後となる。

現在の馬見ヶ崎川は、近世初期に山形城下への水害を防ぐため、島居忠政による河川改修が行われ、益山付近で北に大きく流路を変えている。それ以前は小白川から旧県庁（文翔館）付近を通って西へ流れおり、陣場付近では陣場沼などのため池が、河道の名残として昭和40年代まで遺存していた。現在の本遺跡周辺は馬見ヶ崎川と須川に挟まれた低湿地となっているが、河川改修以前の状態では河道の流路は一定ではなく、一時的には馬見ヶ崎川の河道が来ていたであろうと指摘されている。

地形的には、この付近は馬見ヶ崎川扇状地の前線帯にあたり、豊富な湧水に恵まれている。地表では自然堤防の発達が明確ではないが、遺跡は低湿地中のわずかな自然堤防状の微高地に立地し、集落が營まれたと考えられる。周辺の地権者の話によると、「島」という地名のとおり、耕地整理以前は島状の高まりが付近に点在していたとのことである。

本遺跡は、市街地から約3km離れた島地区に所在し、標高は約105~106m、地目は水田、畑である。一帯は良好な水田地帯であるが、一方で民間組合による土地区画整理事業が大規模に進められている。

2 歴史的環境

山形市内には現在約380を超える遺跡が確認されている。それらの多くは奥羽山系から流下する馬見ヶ崎川、立谷川、乱川などの各河川が形成した扇状地上に分布する。馬見ヶ崎川扇状地扇端部から前線帯にかけては、湧水帯や自然堤防に沿って遺跡が分布する様相が近年の調査で明らかになってきている。

梅野木前1遺跡が所在する島及び今塚地区では、弥生時代頃から集落が營まれており、稻作に適した環境を求めた結果、弥生時代以降、平野部や低湿地へ進出したものと考えられる。

弥生時代では、江俣遺跡や今塚遺跡で石包丁や軋痕が付く土器が出土している。また河原田遺跡では、県内では希少な同時代の木棺墓5基と土器棺墓1基や、住居跡と想定される柱穴群が検出された。

古墳時代では、古墳時代前期の焼失家屋が検出された今塚遺跡や特異な形態の棟持柱建物跡が検出された長表遺跡などが確認されている。また本遺跡においても、県内最古の水田造構が検出され、古墳時代前期の住居域、生産域などの集落構成が窺える良好な資料が得られている。さらに本遺跡の南西約200mに位置する梅野木前2遺跡では、古墳時代後期の打込み柱建物跡が1棟検出されている。また、国の史跡にもなっている船遺跡は低湿地に立地する遺跡で、打込み柱による建物跡をはじめ、建築材や農具などの多様な木製品および土製品が出土した古墳時代後期の集落跡である。

奈良・平安時代では、紀年木簡（853年）や多量の墨書き土器などが出土し、役所的な性格を持つと考えられる今塚遺跡が所在する。本遺跡の県による調査でも、竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出され、溝跡から多量の墨書き土器が出土した。また河原田遺跡などでも同時代の遺構・遺物が検出している。

中世以降では、長表遺跡や今塚遺跡が所在する。長表遺跡では方形館の外郭部と推定される堀跡が検出され、「三つ脚」の紋様を持つ漆器碗や青磁、須恵器系陶器などが出土している。



第2図 遺跡位置図

III 遺跡の概観

1 調査区と層序

梅野木前1遺跡は南北約200m、東西約180mの範囲に広がる。地目は水田・畑となっており、標高は北端で約105m、南端で約106mを測る。県道整備事業に係り、平成15・16年度に財団法人山形県埋蔵文化財センターによる発掘調査が行われている。

調査区は、本遺跡範囲に幅1.6m、長さ約130mのトレンチを入れた形となり、道路を横断する農業用水用パイプなどがあるため、北から南へ1～6区までの各区に分けられる。調査区を覆うグリッドは、世界測地系座標に基づきX = -190,390.00、Y = -45,300.00を原点とし、南をS、西をWと表記し、そこから1mを最小単位とするグリッドの設定を行った。

基本堆積土層の観察は1～6までの各調査区で行った。その結果、基本的な堆積は各地点において概ね同様である。地表面から地山までは大別すると、7層に分層可能である。

具体的には、I層が道路敷設の際の碎石および盛土で、厚さは最大で約60cmを測る。地表の標高は1区で約105.5m、6区で約106.2mを測り、南から北に向かって傾斜する。II層が旧耕作土で、水田耕作に由来する耕作土および水田基盤層である。厚さは最大で約25cmを測る。III層が黒褐色シルトの自然堆積層ではほぼ水平に堆積する。IV層は河川などの氾濫による堆積と思われる層で、黒褐色シルトに灰黄褐色細砂を斑状に一定程度含む。このIV層は1区南半から3区まで確認され、それより南では未確認である。V層は黒褐色シルトに炭化粒が少量含まれる層で、2区を除き各区において確認される。VI層が奈良・平安時代の土器片を含む遺物包含層であり、ほぼ水平に堆積し、厚さは最大で14cmを測る。VII層が灰黄褐色砂の地山であるが、1区の北端僅は粘性が強く、未分解植物質を含む土壤となり、低湿地のような状態であったと推測される。近接する県調査区でも東側に低湿地が検出されており、その延長にあたるものと判断される。遺構検出面はVII層直上面で、標高は1区で104.5m、6区で105.5mであった。

また、奈良・平安時代の遺構確認面以下について、部分的に掘り下げを実施したところ、地山以下約5～50cm下に未分解植物質を含む泥炭層が確認され、古墳時代の文化層などは検出されなかった。

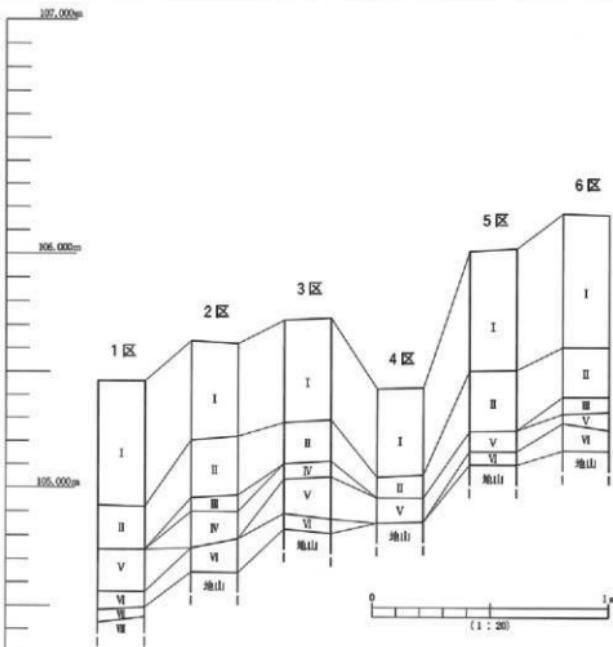
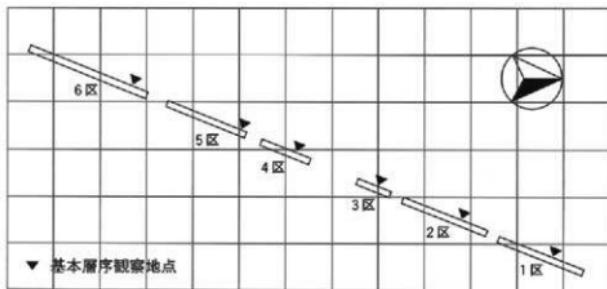
2 遺構と遺物の分布

調査で検出された遺構は、土坑、溝跡、柱穴跡、落ち込み状遺構等で登録した数は16基である。これらの遺構の大部分は、出土遺物、覆土などから平安時代に帰属するものと判断される。

遺構は調査区の北半、1～4区に多く検出され、土坑、溝跡、柱穴跡などである。遺物では須恵器や土師器、赤焼土器などの土器が大半で、遺構の分布と同様、1～4区からの出土が多い。時期的には平安時代前葉頃があたられる。また、調査区南端の6区では遺構が検出されず、遺構確認面である地山もグラウシ化し、遺跡が立体化するのに適する状況とは考えられないため、遺跡範囲の南限にあたるものと判断される。

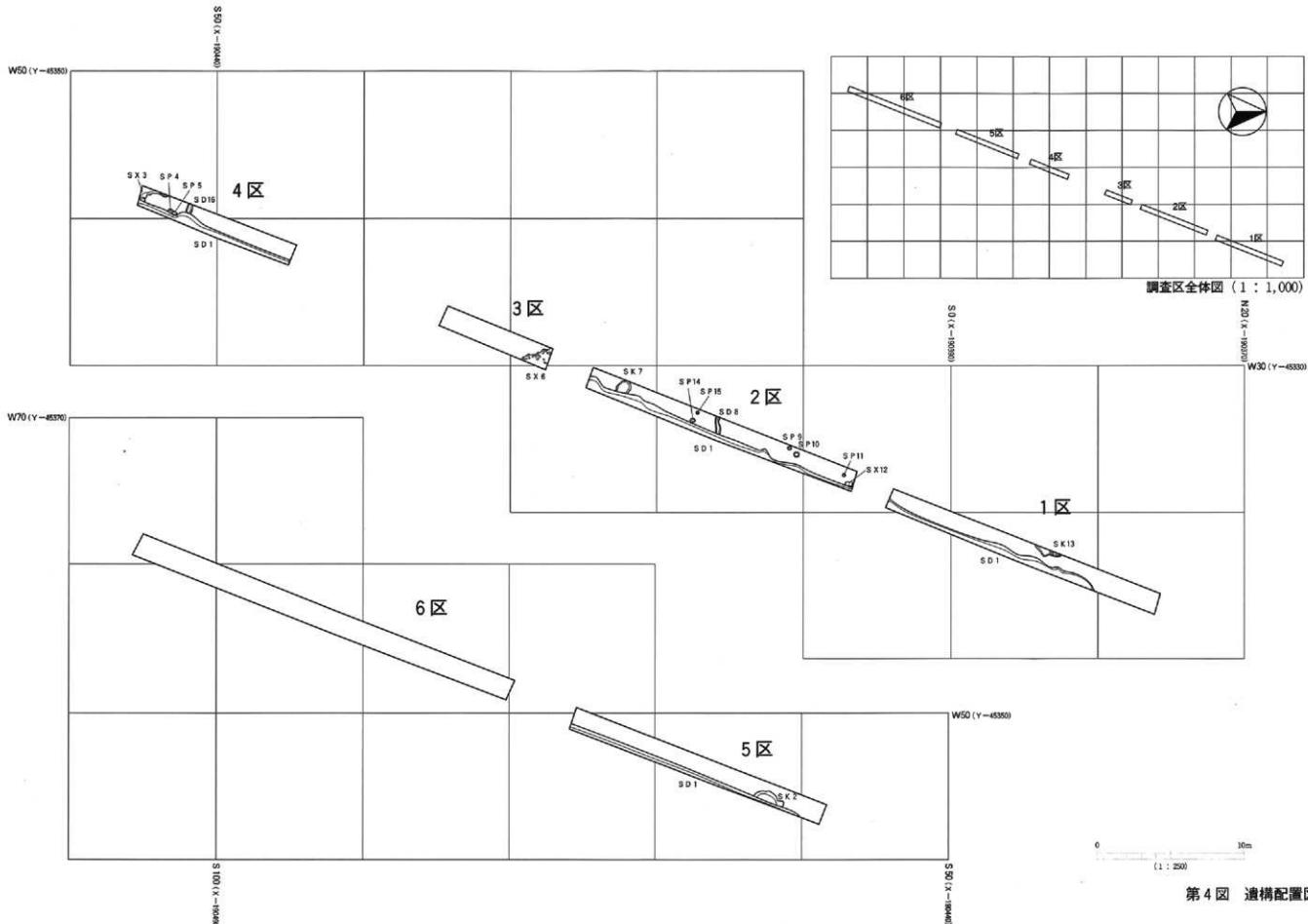
本遺跡は、近接する県調査区で下層に古墳時代前期、上層に奈良・平安時代の遺構面が確認されているが、今回の調査区では古墳時代の文化層は検出されていない。本調査区より東側の遺跡範囲には奈良・平安時代の集落が広がっているものと考えられる。

その他として、中世の陶器片が出土しているが、当該期の遺構は未検出であるため、本遺跡周辺に中世の遺跡が存在する可能性が考えられる。



- I : 砂石・盛土 農道敷設時盛土
- II : 10YR 3/2 黒褐色シルト 旧耕作土層。管状縞化鉄道文がみられる。現代陶器片を含む。水田耕作に由来する。
- III : 10YR 3/2 黒褐色シルト 炭化粒を少量含む。砂混じり。
- IV : 10YR 3/1 黒褐色シルト 10YR 4/2 灰黃褐色砂を斑状に20~40%含む。河川の氾濫による堆積と思われる。
- V : 10YR 3/2 黒褐色シルト 炭化粒を少量含む。
- VI : 10YR 2/1 黒色シルト 土器片を含む。砂混じり。炭化粒を含む。遺物包含層。
- VII : 10YR 4/1 褐灰色~4/2 灰黃褐色砂質シルト~砂 地山。上面が遺構検出面。
- VIII : 10YR 5/1 梅灰色粘質シルト 地山。未分解植物質を含む。粘性やや強い。

第3図 基本層序柱状図



IV 検出された遺構と遺物

1 土坑

本遺跡で検出された土坑は3基である。以下に掲載した土坑について概述する。

S K 13 (第5図) 1区中央に位置する。西半は調査区外となるが、やや不定形な円形を呈すると思われる。検出長で東西58cm、南北202cmを測り、覆土は黒褐色シルトの單層である。検出面からの深さは約4~10cmを測り、底面が凹凸している。遺物は須恵器坏片と土師器壺片が出土した。5-1~4は底部切離しが回転糸切の須恵器坏である。1は底部外面に墨書「八(又は分)六」がなされる。2も字種は判読不明だが、内面見込みに墨書が確認される。5-5は土師器壺の部で、ハケメ調整が施される。

S K 2 (第6図) 5区北側に位置し、SD 1に東半を切られている。やや不定形な円形を呈し、検出長で東西44cm、南北134cmを測る。覆土は3層からなり、底面は平坦である。遺物は出土していない。

2 溝跡

溝跡および溝状遺構は2条検出されている。以下、掲載した溝跡について概述する。

S D 8 (第6図) 4区南半、S P 14の北側に位置し、やや蛇行しながら東西方向に伸びる溝跡である。東側をSD 1に切られ、西側は調査区外となる。幅が最大で32cm、長さは検出長で115cmを測る。

覆土は4層からなり、底面はU字状を呈する。遺物は出土していない。

S D 1 (第7・8図) 1・2・4・5区で検出された南北に伸びる溝跡である。東側は調査区外となるが、幅は検出長で40~85cm、確認面からの深さ約25cmを測る。ごく近年まで使用された用水路跡で、現代遺物に混じり出土した、古代の遺物等について掲載した。8-1は底部ヘラ切の須恵器坏で、内面見込みに「十」が墨書きされる。他に須恵器壺(8-3)や壺(8-4)、須恵器系陶器(8-5)などが出土した。

3 柱穴跡

柱穴として登録した遺構は7基である。その大半は検出面からの深さも浅く、規模も小さいものが大半であり、建物を構成するとは考えにくいものであった。時期は出土遺物、覆土などから平安時代に帰属するものと判断される。以下、掲載した柱穴跡について概述する。

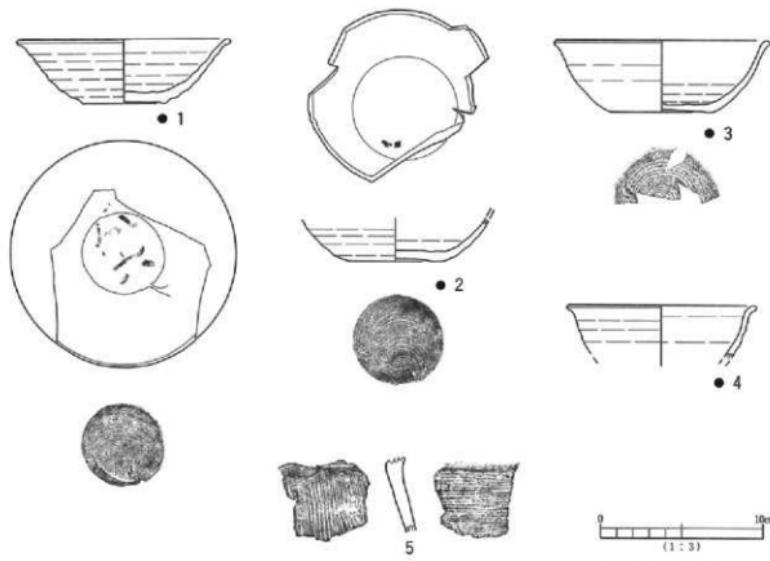
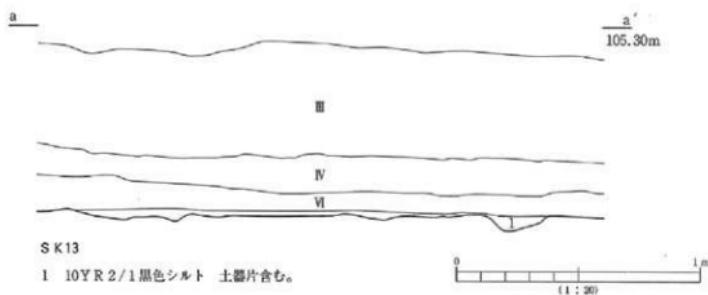
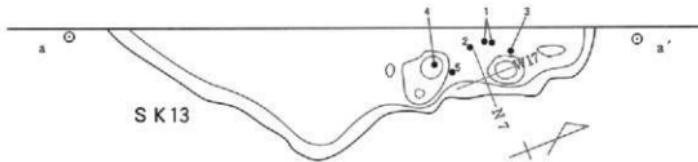
S P 14 (第6図) 4区南端に検出され、S P 15の東、SD 8の南に位置する。覆土は3層からなり、底面はU字状を呈する。遺物は出土していない。

4 その他出土遺物 (第9・10図)

本書において包含層、表土などから出土した遺物のうち、図化したものについて以下に概述する。

9-1は須恵器蓋、9-2~4・7・8は須恵器坏である。底部切離しが3・7が回転糸切、4・8が回転ヘラ切である。3の底部外面にはヘラ書き「×」が認められる。9-5・6、10-1・2は須恵器高台付坏である。底部切離しが調整のため不明な6以外は回転糸切で、5は字種が不明だが墨書きが確認される。10-3・4は須恵器壺である。3は赤褐色を呈し、体部にケズリ調整が施される。4はカキメおよびケズリ調整されていて、10-5・7は須恵器壺で、5は外面に平行タタキ、内面に同心円状アテ、7は外面に平行タタキ、内面はナデ調整されている。10-6・9は小型の土師器壺である。6は口縁部付近がナデ、体部はハケメ調整が施される。9は瘤物痕をもつ底部である。10-8は須恵器系陶器の壺片である。10-10・11は石製品である。10は凝灰岩製の砥石で2面に研ぎ面が確認される。11は黒色の苔石である。10-12は火切臼で、下部を欠損している。臼穴が3ヶ所あり、いずれも炭化している。

その他、図化していないが内面黒色処理の土師器坏片や赤焼土器坏片が出土している。

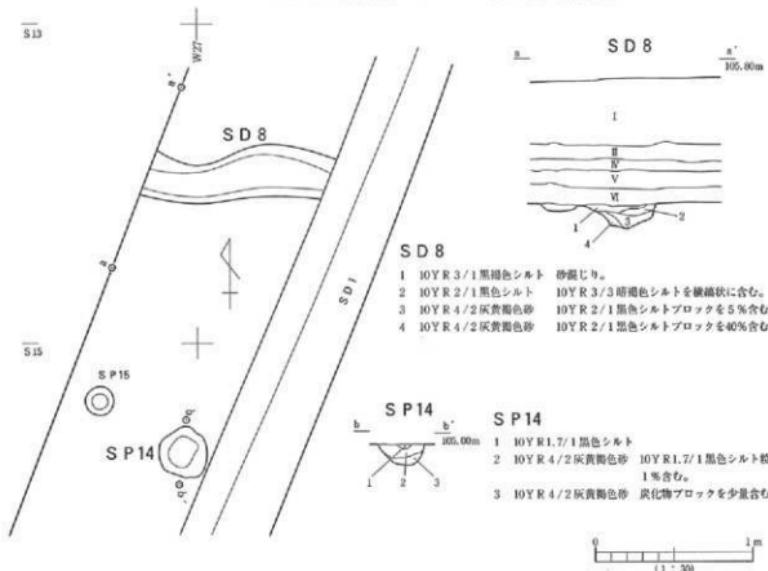


第5図 SK 13土坑

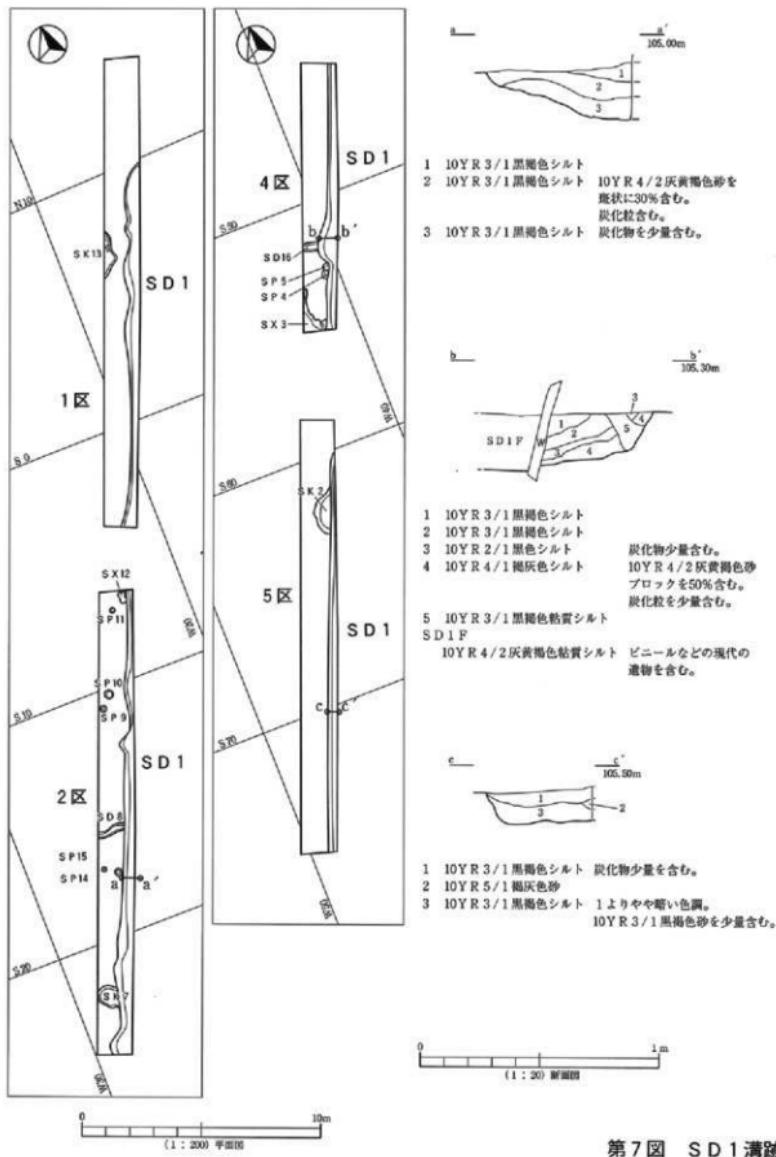


SK 2

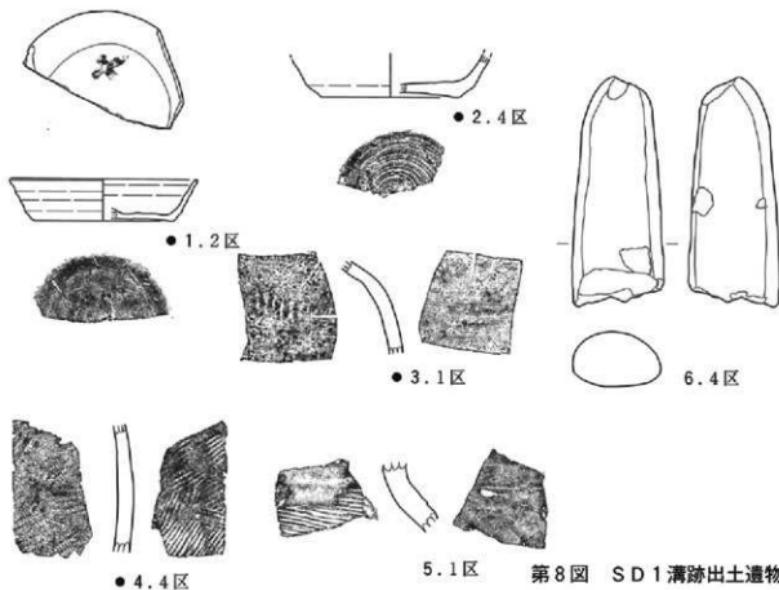
- 1 10YR 3/1 黒褐色シルト 勢混じり。
2 10YR 2/2 黒褐色シルト 勢混じり。より砂の混じりが多い。
3 10YR 4/2 灰黄褐色砂 10YR 3/1 黒褐色シルトブロックを10%含む。
SD 1 F
10YR 3/1 黒褐色粘質シルト ピニールなどの現代の遺物を含む。



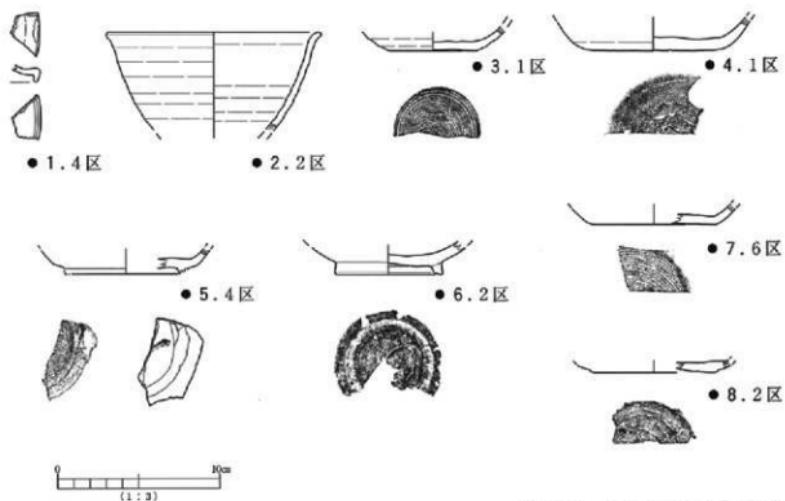
第6図 SK 2 土坑・SD 8溝跡・SP 14柱穴跡



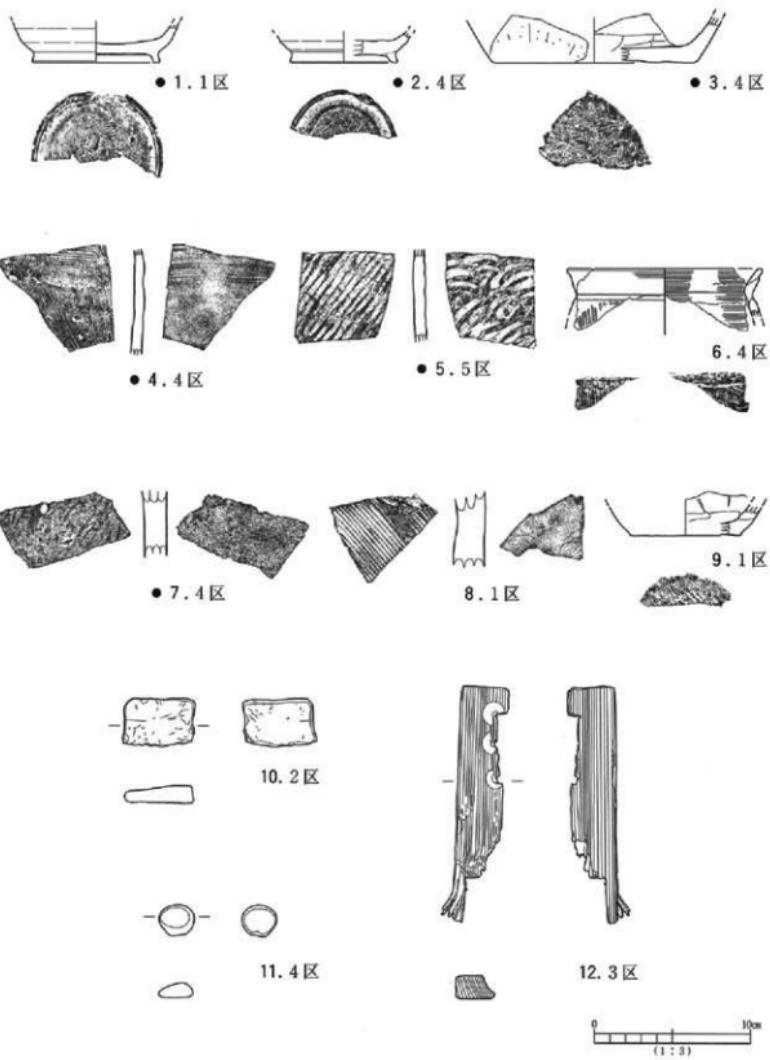
第7図 SD 1溝跡



第8図 SD 1溝跡出土遺物



第9図 その他出土遺物（1）



第10図 その他出土遺物（2）

表1 出土遺物観察表

査定番号	遺物番号	出土地点・層位	器種	機関	計測値(cm)	外觀特徴	内面特徴	底堅特徴	色調(外面)	備考
	1	1区・SK13	环	羽根器	(12.8)	5.1	4.0	ロクロ	ロクロ	圓軸系切 N.S.5~3.5G.Y.6.1 R.P.3.
5	2	1区・SK13	环	羽根器	-	5.6	-	ロクロ	ロクロ	圓軸系切 N.S.5~3.5G.Y.6.1 R.P.3.
5	3	1区・SK13	环	羽根器	(13.0)	(5.4)	4.5	ロクロ	ロクロ	圓軸系切 5Y6.1 黄色
5	4	1区・SK13	环	羽根器	(11.4)	-	-	ロクロ	ロクロ	N.4.5 黄色
5	5	1区・SK13	茎	土脚器	-	-	-	ハゲメ	ハゲメ	R.P.12
1	6	2区・SD1	环	羽根器	(11.4)	(8.6)	5.6	ロクロ	ロクロ	圓軸ヘラ切 2.5Y6~5.5.1 黄灰色
2	7	4区・SD1	环	羽根器	(8.5)	-	-	ロクロ	ロクロ	圓軸系切 2.5Y6~5.5.1 黄灰色
3	8	1区・SD1	茎	羽根器	-	-	-	ロクロ・ロクロ	ロクロナメ	圓軸骨針 黄灰・灰白色
4	9	4区・SD1	茎	羽根器	-	-	-	平行タタキ	平行タタキ	圓軸骨針 N.4 黄色
5	10	1区・SD1	茎	羽根器	-	-	-	タタキ	アチ	10YR5.5.1 黄灰色
6	11	4区・SD1	磨石	石製品	13.5	5.7	3.3	-	-	下端大掛 5Y6.1 黄色
1	12	4区・包含層	茎	羽根器	-	-	-	ロクロ	ロクロ	圓軸骨針 N.6 黄色
2	13	2区・面整理	环	羽根器	(13.0)	-	-	ロクロ	ロクロ	ヘラ骨针「X」
3	14	1区・包含層	环	羽根器	-	5.3	-	ロクロ	ロクロ	圓軸系切 2.5Y7.1 黄白色
4	15	1区・包含層	环	羽根器	-	8.7	-	ロクロ	ロクロ	圓軸ヘラ切 10YR8.6.1 黄白色
5	16	4区・面整理	高台付环	羽根器	-	(6.7)	-	ロクロ	ロクロ	圓軸系切 N.S.5 黄・灰白色
6	17	2区・包含層	高台付环	羽根器	-	6.4	-	ロクロ	ロクロ	圓軸ヘラ切 5YR5.5.1 黄灰色
7	18	6区・包含層	环	羽根器	-	(7.6)	-	ロクロ	ロクロ	圓軸系切 10YR6.1 黄灰色
8	19	2区・武士船去	环	羽根器	-	(7.8)	-	ロクロ	ロクロ	圓軸ヘラ切 5Y6.5.1 黄色
1	20	1区・武士船去	高台付环	羽根器	-	8.1	-	ロクロ	ロクロ	圓軸系切 2.5Y6.1 黄灰色
2	21	4区・武士船去	高台付环	羽根器	-	5.5	-	ロクロ	ロクロ	圓軸系切 2.5Y6.1 黄色
3	22	4区・武士船去	茎	羽根器	-	(12.8)	-	ヘラナメ	ヘラナメ	5YR5.5/4 黄・赤褐色
4	23	4区・武士船去	茎	羽根器	-	-	-	カキメ・タズリ	カキメ・タズリ	2.5Y6.1 黄灰色
5	24	5区・武士船去	茎	羽根器	-	-	-	平行タタキ	平行タタキ	2.5Y4.4~5.5.1 黄灰色
6	25	4区・面整理	茎	土脚器	(12.0)	-	-	ナメ・タツメ	ナメ・タツメ	10YR6.3 に赤い黄褐色
7	26	4区・武士船去	茎	羽根器	-	-	-	タタキ	タタキ	5Y6.1 黄色
8	27	1区・武士船去	茎	羽根器	-	-	-	アチ	アチ	N.5 黄色
9	28	1区・包含層	茎	土脚器	-	(7.0)	-	マメツ	マメツ	5YR6.4 に赤い黄色
10	29	2区・面整理	砾石	石製品	3.1	4.55	1.1	ヘラナメ	ヘラナメ	網目網
11	30	4区・武士船去	砾石	石製品	2.3	2.0	0.95	-	-	網目網
12	31	3区・武士	木製品	-	15.1	3.0	1.5	-	-	網目網 (黒化している)

V まとめ

今回の調査は、市道崎西廻り線道路改良工事に係る梅野木前1遺跡の緊急発掘調査である。調査面積は約185m²を測り、調査日数は延べ29日間である。平成15・16年度に財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した発掘調査区域の南東に接する。

梅野木前1遺跡は山形盆地の東南部、山形市の島地区に所在する。馬見ヶ崎川扇状地の前縁部に立地する、古墳時代と奈良・平安時代の複合遺跡である。

調査では平安時代の土坑、溝跡、柱穴跡、落ち込み状遺構などを検出した。出土した遺物は須恵器、土師器、赤焼土器、中世の須恵器系陶器、石製品、木製品など整理箱で約2箱である。近接する県調査区では同時代の豊穴住居跡や掘立柱建物跡が検出されているが、本調査では調査区の制約もあり、住居跡などは確認されなかつた。また遺物量も比較的少ないとから、本区域は遺跡の中でも遺構・遺物の分布がやや希薄な地区と考えられる。以下、遺構と遺物について概述しまとめてかえる。

遺構では土坑が3基確認され、そのうちSK13からは墨書き器を含む須恵器壺や土師器などの土器片がまとまって出土した。溝跡は幅も狭く、小規模なものでその用途は不明である。柱穴は柱痕跡が明確なものは少なく、調査区が狭小であることから建物跡を構成するには至らなかった。

一方、平安時代の土器群では須恵器が主体を占め、土師器、赤焼土器が量的に僅少であることが特徴としてあげられる。供膳具では須恵器蓋・壺・高台付壺、土師器壺、赤焼土器壺が出土している。須恵器蓋は僅少で、全形が知り得るものはない。須恵器壺は底部切離しが回転糸切無調整のものが主であるが、回転ヘラ切のものも一定量認められる。高台付壺の底部切離しが回転糸切を主体とする。また、墨書き器が計4点出土している。壺・高台付壺の底部外面および内面見込みなどに墨書きされ、そのうち2点は「十」や「八六」などの数字と思われるものである。土師器壺は破片のため、実測し得たものはないが、ロクロ成形で内面がミガキ、黒色処理される。赤焼土器壺は土師器壺同様、量的に僅少である。貯蔵具では須恵器壺や壺が出土しているが、完形に近い形となるものは皆無である。壺は体部外面にカキメ、ケズリ調整、内面にカキメ、ナデ調整が施される。壺は外側に平行タタキ、内面に同心円状アテ痕などが認められる。煮炊き具では、非ロクロ成形で平底の土師器壺が出土している。底部や体部など部分的な遺存であるが、小型と大型の二種類が認められる。内外面はハケメ調整され、底部には木葉痕や編物痕が確認される。

これらの遺物は形態や組成などから、平安時代の概ね9世紀前半～中葉にあてられる。

本遺跡の今調査においては、県調査区の成果と直接関連を示すような遺構は確認されなかつた。しかし遺物の年代は時期的に重複しており、一連の遺跡であると判断される。今後、周辺遺跡の調査成果も合わせて検討していくかなければならない。

〔参考文献〕

- 山形県埋蔵文化財センター：2003『梅野木前1遺跡調査説明資料』
- 山形県埋蔵文化財センター：2004『梅野木前1遺跡第2次調査説明資料』
- 須賀井新人・樋松曉彦・黒坂弘美：1994『今堀遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第7集
- 武田和宏：2004『河原田遺跡・梅野木前2遺跡発掘調査報告書』山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第22集
- 阿部明彦・水戸弘美：1999『山形県の古代土器編年』『第25回城下官衙検討会資料』

報告書抄録

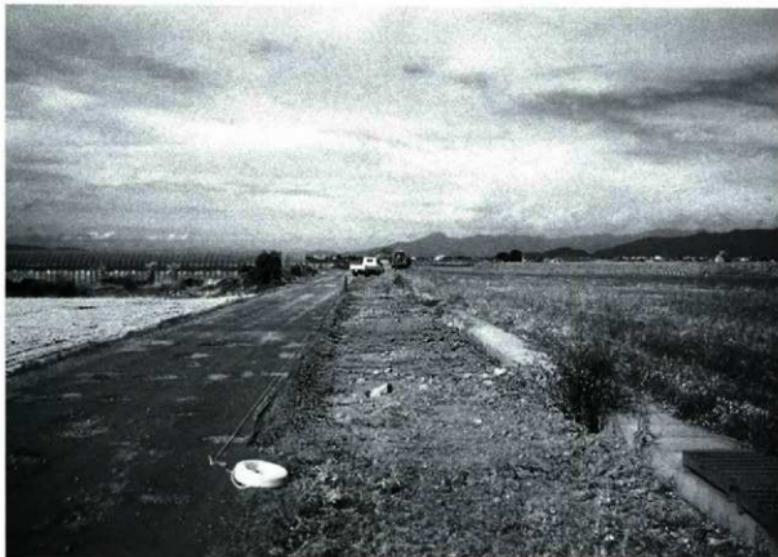
ふりがな	うめのきまえ いせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	梅野木前1遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県山形市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第26集
編著者名	植松薫
編集機関	山形市教育委員会
所在地	〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号 TEL 023-641-1212
発行年月日	2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うめのきまさえ 梅野木前 1	やまがたけん 山形県 やまとがたし 山形市 よしもと 大字 うめのきまさえ 梅野木前	6201	平成 3 年度 登録	140度 19分 9秒	38度 16分 50秒	20051003 ? 20051031	185	市道嶋西 通り線道路改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
梅野木前 1	集落跡	平安時代	土坑 溝跡 柱穴	土師器（壺・甕） 須恵器（蓋・壺・ 高台付壺・盃・甕） 赤焼土器（壺）		9世紀前半の集落		

	<p>梅野木前1遺跡は山形盆地の東南部、馬見ヶ崎川扇状地の前線部に立地する、古墳時代と奈良・平安時代の複合遺跡である。市道鷲西廻り線道路改良工事に伴い発掘調査を実施した。調査では、平安時代の土坑や柱穴などの遺構が検出され、須恵器や土器、赤焼器などの遺物が出土した。遺物の中には墨書き器も4点含まれている。近接する県調査区では、同時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが検出されている。本調査区では狭小のため、建物跡などの具体的な遺構は未検出であるが、全体的に遺構・遺物の分布が希薄な地区と考えられる。</p>
--	--

圖 版





調査前状況（南から）



2区 造構完壊状況（北東から）

図版2



遺構精査状況（南から）



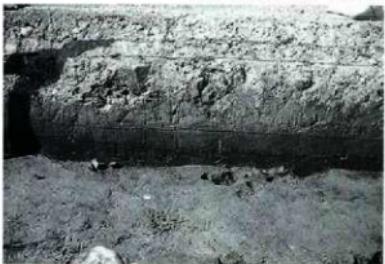
1区 遺構検出状況（北から）



1区 遺構検出状況（南から）



1区 基本層序（東から）



1区 SK13（東から）



1区 SK13土器出土状況（北東から）



1区 遺構完掘状況（北から）



2区 遺構検出状況（北から）



2区 遺構完掘状況（北から）



2区 基本層序（東から）



2区 SD 8・SP 14他完掘状況（東から）



2区 SD 1断面（南から）



2区 SD 1須惠器片出土状況（南から）



3区 遺構完掘状況（北から）



3区 遺構完掘状況（南から）



3区 SX 6（南東から）

図版 4



4区 造構完掘状況（南から）



4区 基本層序（東から）



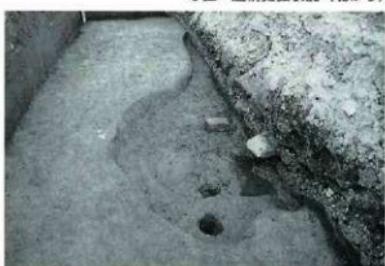
4区 造構完掘状況（南から）



5区 造構完掘状況（北から）



5区 基本層序（東から）



5区 SK 2 完掘（南から）



6区（北から）



6区 基本層序（東から）



調査区近景（北から）



重機による埋戻し（南から）



側溝工事立会調査（南から）

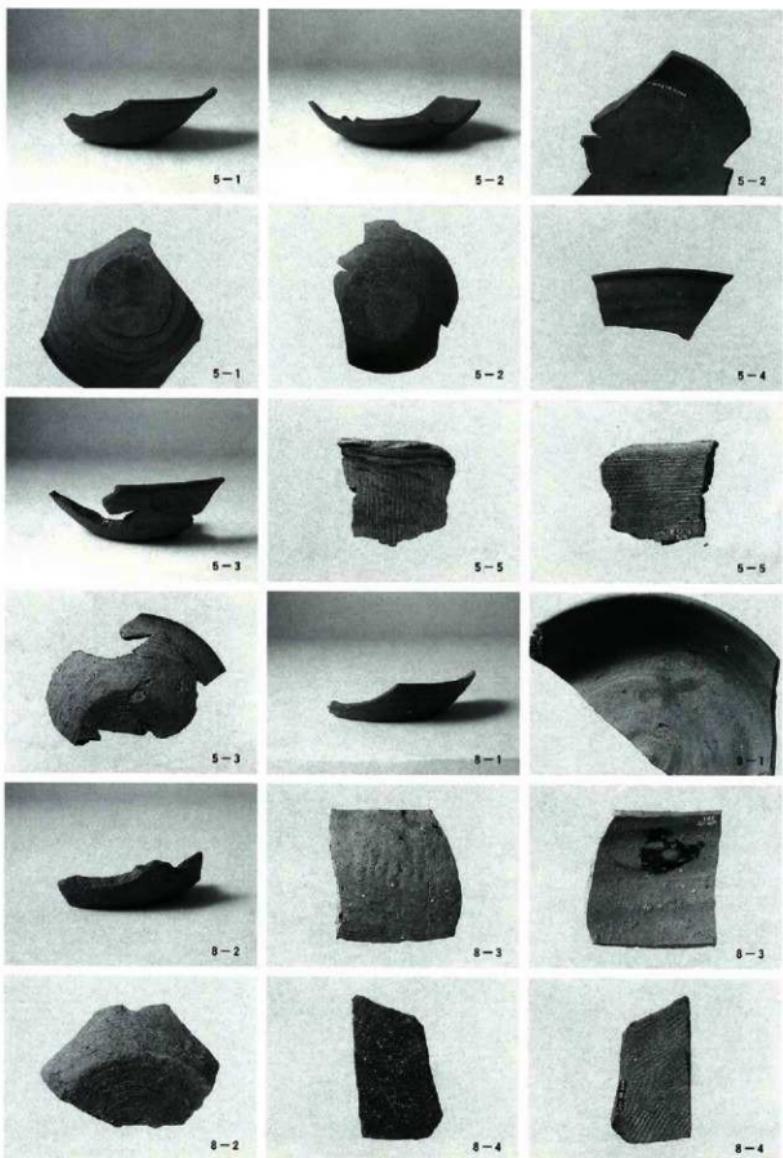


埋戻し完了状況（南から）

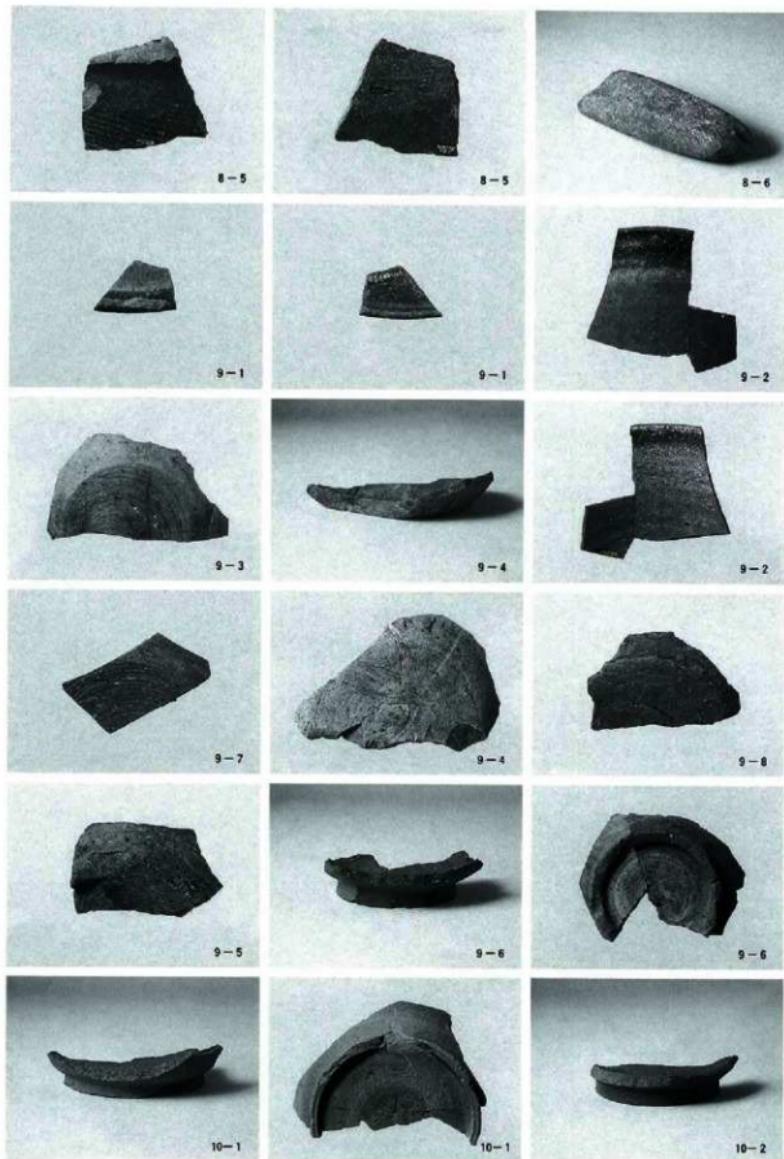


立会調査基本層序断面（南東から）

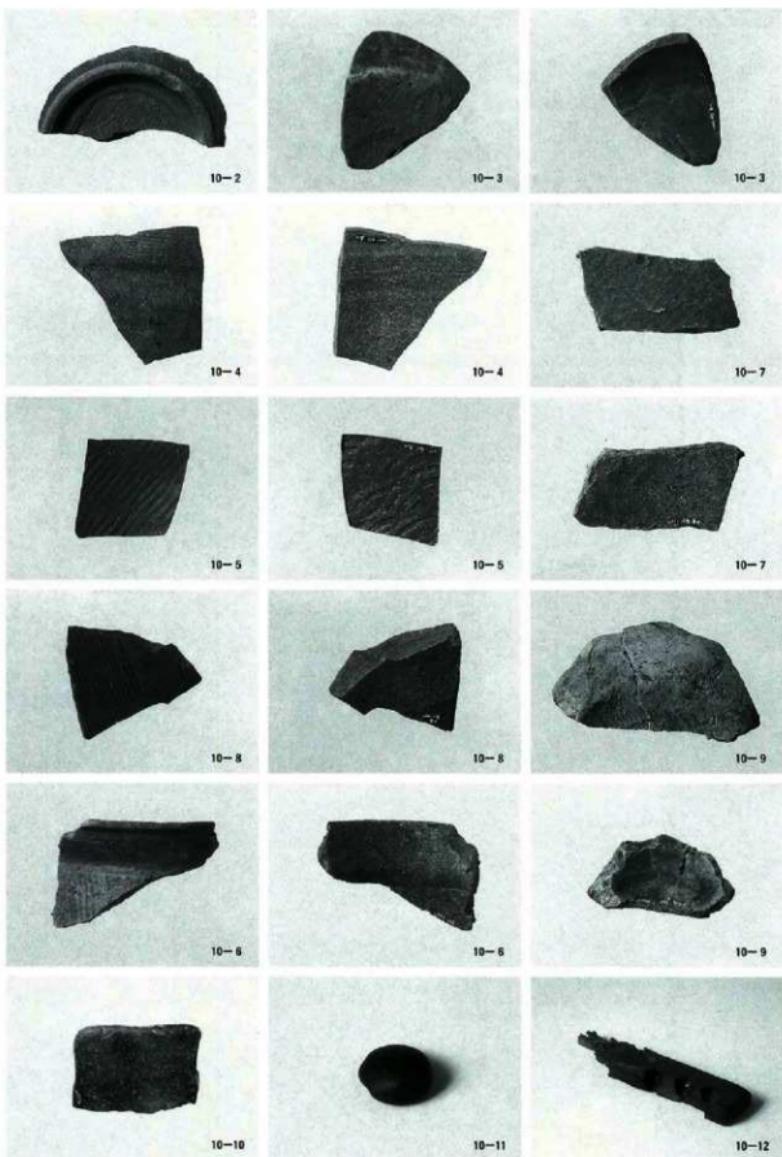
図版 6



図版 7



図版 8



山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第26集

梅野木前1遺跡発掘調査報告書

2006年3月31日発行

発行 山形市・山形市教育委員会
〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号
電話 023-641-1212

印刷 山形印刷株式会社
〒990-3323 山形県山形市桜田東三丁目7番31号
電話 023-622-6291

